

令和2年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和3年3月

学校法人資生学園 認定こども園つばみ幼稚園

1. 園の教育目標

園児に遊びを通して集団生活を経験させ、心身共に健全で自主創造の精神にとみ、情操豊かな子どもを育てる。

- 1、じょうぶで明るく、たくましい子どもを育てる
- 2、自分から進んで取り組み、やり遂げる子どもを育てる
- 3、友だちとなかよく助け合う子どもを育てる
- 4、個性豊かで、創造性にとむ子どもを育てる

2. 本年度の経営方針

教職員一人ひとりが、園児の豊かな成長を願い、創意工夫と協働・協調のもとに教育活動を創造し、信頼される幼稚園づくりに努める。

3. 評価項目の達成及び自己評価

評価項目	取り組み状況と改善の方策
子どもは、毎日安心して園に通えたり、預かりに来れるように関わっている。	子どもたちが元気に安心して過ごせるよう、一人ひとりに寄り添いながらかかわっている。
遊びを通して工夫したり、協力したりするように関わっている。	遊びを工夫し、展開していけるような環境構成を意識している。また、遊びを通し子ども同士のかかわりが持てるよう意識しながら保育を進めていきたい。
生活や遊びのなかで、自分から取り組み、最後までやろうとするように関わっている。	子どもの気持ちに寄り添いながら、意欲や主体性を大切にしながら指導や援助を行っている。時には見守り、達成感に繋がるようにかかわっていく。
子どものよさを認めて評価しようとしている。子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じている。	実態把握や具体的な手立てを教師間で共有し、連携を図り、子ども一人ひとりの個性を伸ばしていけるよう努めている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行っている。	子ども自身が意識できるよう、日々の生活の中で繰り返し指導している。今年度は特に感染症に配慮し、手洗いうがいの指導に力を入れてきた。今後も家庭と協力しながら実践していく。

子どもの実態や配慮事項などを報告や連絡・相談等から、職員間の共通理解を図ろうとしている。	細かく報告し合い、教師間で情報を共有し次につながるようにしている。今後も報告・連絡・相談を怠らずより良い保育に繋がるよう努めていきたい。
年に1回以上公開保育を行い、日々研鑽に努めている。	学級担任は園内研修として公開保育を行っている。自分の保育を振り返ったり、他の教師からの意見をもらい、保育を学ぶ良い機会になっている。
各研修会や研究会に積極的に参加して、学びを幼児理解と保育活動に生かしている。	コロナ禍だったがオンライン等での研修に参加し、学んだことを保育で実践していけるように意識している。今後も自ら積極的に学び保育の質を高めていきたい。
子どもへの安全配慮がなされ、事故防止に努めている。	安全面に配慮し、危険の無いよう心掛けている。教師間でも安全面について話し合い、事故防止に努めている。
保護者と共に子どもを育てるという姿勢をもち、保育内容を伝えたり、話し合ったり、預かり中の様子を伝えている。	子どもの姿や成長を具体的に保護者に伝えられるよう心掛けている。これからも保護者と子どもの姿を共有しながら、協力し合い子どもの成長に繋げていきたい。
園だよりや学級だより、参観懇談、連絡帳、ホームページ等を通して幼稚園の情報を発信している。	クラスだよりでは具体的な姿が伝わるようにカラー写真で活動の様子を載せて発行している。また、ホームページを活用し、子どもたちの姿を発信している。
地域の資源（円山公園、旭山公園など）や人材（緑丘小、たんぼぼの丘、中学生の職場体験など）により、教育活動を豊かにしている。	園外保育など地域の恵まれた資源により身近な自然とかかわっている。コロナ禍の中、動画や手紙のやり取りを通し、学校や施設との交流が出来るよう進め、子どもの豊かな成長に繋がっていると感じる。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
職員間のチーム力を高めていく	職員間で情報を共有し連携の強化を図りながら保育に携わり、一人ひとりの子どもの成長に繋げていく。 また、若手の育成に努め信頼される園づくりをしていく。
保護者とのコミュニケーション	子どもたちの様子を知りたいと保護者アンケートにもあがっており、幼稚園での子どもたちの姿や日々の出来事など、もう少し細かく伝えられるよう心掛けていく。

6. 学校関係者評価委員会の意見（総合的な評価結果と意見）

結 果	理 由
A	今年度はコロナ禍ですから幼稚園を運営していく上で重要な点は、子どもの安全と安心の確保である。できる限りの感染防止対策を取りながら職員のチームワークと保護者の理解と協力のもと、活動を円滑に進められたことは評価できる。今後も子どもたちの健やかな育ちを第一に進めていくことを期待する。